

防災の取組みが全国でも話題に！



弁華別中学校 2年生の生徒の皆さん

昨年12月30日付け毎日新聞(全国版)に
弁華別中学校(全校生徒23人)での防災の
取組みが紹介されました。

弁華別 Benkebetsu Junior High School 中学校



“いざ”に備えた取組み

学校や地域で取り組む防災教育・活動を顕彰する「ぼうさい甲子園」(毎日新聞社、兵庫県など主催)に初めて応募したところ、入賞こそ逃しましたが、特にユニークな取組みとして紹介(全国から4校)されました。弁華別の近くには地震の原因となる活断層(当別断層)があることが分っており、高橋校長先生は「災害時、自分の命は自分で守る。その上で他人のため、手をさしのべられる人間になってほしい」と、防災は学校や地域としての重要な取組みとして、その認識も高いようです。

そこで 弁華別中学校では、3年前より役場、地元の航空自衛隊、消防署の協力を得ながら、応急処置や救命法を体験したり、緊急避難場所

である体育館での合宿を兼ねた訓練を行ってきました。その中で身近なものを使った担架の製作や、仮設トイレの利用、ビニール袋を使った骨折の応急処置、更には総合学習で育てた野菜を使ったカレーライスの炊き出しなど、実際に想定される様々な訓練を実施したのです。今年度は、全校生徒が参加して災害の図上訓練(DIG)を実施。地域にある橋や道路が寸断されたときの対処などをみんなで話し合いました。

訓練を受けての生徒の感想は……

「**担架**の作り方はとても勉強になった。あるものを利用して簡単に作ることもできる。」

「**災害**は起きないと思っただけで、実際に起きた時は冷静に行動しなければ

ならないと思いました。」

「**実際**に災害にあった時は混乱してしまうかもしれないけれど人工呼吸、AEDの使い方は人の命に関わること。しっかり学んでおきたい。」

「**防災**の意味が判っていたけれど、図上演習でも火災時の風向きなど総合的に判断して行動しなければならないことがわかりました。」

「**非常食**、とくに五目御飯は思ったよりおいしかった。普段から備蓄しておくことも大切。」

上記のように、生徒の皆さんにも防災に対する意識が芽生えたようです。地域密着型のこの取組みは、総合学習の時間が減少する中であっても、学校では今後も継続して実施していくこととしています。